

ニューイングランド便り 2020年

マサチューセッツ州ウースター市

沼倉研史

今年も恒例により米国ニューイングランド地方の町をご紹介します。今回はマサチューセッツ州のウースター（Worcester）市です。英語の綴りを見ると、ウーセスターと発音しそうですが、ウースターが正しい発音です。調味料のウースターソースと同じく、英国の地名ウースターシャーから来ています。日本で米国通を任じる方でも、マサチューセッツ州のウースターのことをきちんと説明できる方は、あまり多くはないでしょう。実は、マサチューセッツのウースターといってもふたつあるのです。添付した地図に示されているように、ウースター郡とウースター市です。ウースター市はウースター郡の一部で、中央からやや北東に位置しています。



マサチューセッツ州の中のウースター郡

ウースター市の位置

ウースター市は18万人の人口を擁し、ニューイングランドではボストンに次ぐ大都市です。マサチューセッツ州のほぼ中央に位置するために。昔から交通の要衝として栄えてきました。ボストンから、西に80キロメートルほど内陸に入りますので、冬の気候は厳しいようです。ボストンからは、車で1時間弱で、なんとか通勤可能範囲に入ります。他にバス、通勤列車、アムトラックなどがありますが、本数が少ないので、あまり使い勝手が良いとはいえません。市内には国内線用のウー

スター空港がありますが、どのあたりに飛んでいるのか定かではありません。

ボストンからウースターに出向くとなると、車で行くこととなりますが、途中には広大な樹海が広がっています。これは、ニューヨーク市やロスアンゼルス市の郊外の風景と大きく違っていています。住宅地帯はもちろん、工場地帯でも、高速道路から直接見ることはできません。工場やショッピングモールのような商業施設は、全て樹海の蔭になっているのです。



ウースターに最初に植民が入ったのは、1673年とのことですので、海岸地域の町に比べると半世紀ほど遅れています。最初の入植は原住民の焼き討ちにあい、撤退を余儀なくされます。さらに半世紀が過ぎ、再入植が試みられ、1722に町が発足します。1830年代になると鉄道が引かれ様々な産業が立ち上げられます。多くの工業製品がこの地域で開発され、実用化され、量産されました。身近なところでは、モンキースパナは、この地で発明され、世界中で使われることになりました。近代ロケットの父といわれるロバート・ゴダードは、この地で初期のロケットを組み立て、発射実験を行ったのだそうです。19世紀半ばから、第二次世界対戦までの1世紀に、ウースター工業都市として未曾有の発展を遂げ、1850年には1万7千人だった人口も、100年後の1950年には20万人を越えます。ウースター地域は、名実ともに、ニューイングランド一の工業地帯となります。

しかしながら、第二次大戦が終わると、不況のために製造業は致命的な打撃を受け、人口は16万人まで減少します。町は寂れる一方となりました。このままではいけないと、1980年代になると州を挙げての復興策がこうじられ、ウースター

は文化学術都市へと変貌を果たしました。人口は増加に転じ、現在18万人を越えるところまでもどってきています。

現在のウースターでは、大規模な製造業はほとんどなくなっており、かつての重工業地帯というイメージはほとんどありません。そのため、ダウンタウンの再開発が進みました。かつての煉瓦造りの工場ビルの多くが残っており、内部を改装して、商業施設、オフィス、倉庫、パーキングビル、アパートなどとして活用されています。このため、街の外観はほとんど変わっておらず、1900年前後の世紀末時代のイメージが残っています。当時設計された幅の広い道路が現在でも生きています。





ダウンタウンのメインストリート

ダウンタウンの再開発にあたっては、古いビルの壁面が露出されることがありますが、ウースターでは、なかなか意欲的な芸術作品（壁画）が描かれています。ここでは、世紀末のアールヌーボーと現代のモダンアートがうまく調和しているようです。



20世紀初頭に建設されたユニオンステーションは、ウースターを代表する建築物ですが、白亜の殿堂といった趣で、見ているだけで楽しくなります。



大戦前の工業都市では、それなりの鉄道需要もあったのですが、現代の通勤通学の交通手段としてのウースター駅にとっては、このような豪華な駅舎は無用の長物だったようです。大戦後は廃棄物置き場などに使われ、一時は崩して撤去することも検討されたのだそうです。1990年代になって復活保存する運動が広がり、美しい姿がよみがえりました。これからは、高級な商店やレストランが入るショッピングモールとして生まれかわるとのことです。内装は芸術的にも豪華なもので、一見の価値があります。



音楽の殿堂であるコンサートホールも、古いビルを改装して使っています。ちょっと見た目には、とてもコンサートホールには見えませんが、周りのレンガ造りのビル群とうまく調和しています。

アメリカ考古学学会の本部という建物を見つけました。古い煉瓦造りのビルに、新しい石造りの部分が追加され、全体ではかなりの大きさです。最近日本でも考古学がさかんですが、米国は歴史が新しいだけに、それにかかるエネルギーも大きいのでしょう。



ウースターは学術都市といわれるだけあって、多くの大学がキャンパスをならべています。主なものだけでも10校を越えるでしょう。その中でもリーダー的な位置にあるのが、UMass(University of Massachusetts)です。同大学は、マサチューセッツ州の各地に分校を持っていますが、特に西部地区では、大きな存在になっています。市内で目立つのが、1865年設立のWPI(ウースター工科大学 Worcester Polytechnic Institute)です。市内に広いキャンパスを持ち、多くの古い建物が現在も使われています。



その他、医学薬学系の大学も目立ちますが、その大部分がキリスト教系の大学で、100年以上前の設立です。いずれも古き良き時代の美しい建物を残しています。米国の最初のノーベル賞受賞者は、当地から出ており、以後多くのノーベル賞受賞者を輩出しています。

初等、中等教育も充実しているようです。特に職業訓練校には多様なものがあり

ます。下の写真は Nativity School of Worcester というネイティブアメリカンのための職業訓練校です。拙宅の近くに住むネイティブアメリカンの青年は、「自分もこの学校へ行きたかったけれども、遠くていけなかった。」と話しておりました。



ウースターは極めて教会の多い都市です。おそらく市内だけで百を超える建物が林立しています。多くが19世紀から20世紀初頭の建設のようです。特に、カトリック系の教会が多いように見受けられます。ウースター郡の統計によれば、郡内のカトリック信者は34万人あまりで、人口の38%にあたります。他のプロテスタント教会、東方教会、ユダヤ教などは、各派合わせても10%程度です。49%が無宗教となっています。

市内で際立って立派なのが、1869年創建とされる聖パウロカテドラルです。カテドラルというのは、カトリックの司教座が設けられている教会です。米国では、通常ひとつの州にひとつ以下です。日本ではあまり知られていませんが、司教とはカトリック教会では極めて高い地位の聖職者で、小さな国なら一人しかいません。（フランスの文豪ヴィクトル・ユーゴーの名作レ・ミゼラブルに出てくるミリエル司教を思い浮かべれば、その重要さが理解できるかと思います。）17～18世紀の初期植民時代に、英国国教会やプロテスタント諸派に比べて出遅れたカトリック教会が巻き返しを図った歴史の痕跡といえるかもしれません。



聖パウロカテドラル



メインストリートに林立する各派の教会

ダウンタウンから10分も車で走れば、郊外の古い住宅地域に入ります。このよ

うな地域の建物は、ほとんど例外なくコロニアルスタイルの木造建築です。新しいものでも築100年以上のものばかりで、一戸あたりの敷地は、数百坪くらいはあたりまえです。拙宅がある Haverhill の郊外住宅地区よりも広いかもしれません。いずれにせよ、19世紀の香りたっぷりの、緑あふれる住宅街です。



マサチューセッツ州ウースター市のご紹介はいかがだったでしょうか。限られたスペースでしたので、多くの写真を割愛しなければなりませんでした。ただ、ウースターはいわゆる観光地ではなく、これといった目玉があるわけでもありません。どちらかといえば地味な街造りで、訪問するよりは、住んで見たい地方都市というべきかもしれません。それでも、マサチューセッツ州の西部へ出かける機会がありましたら、立ち寄ることをお勧めしたい町ではあります。